

令和 3 年 6 月 1 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12160

研究課題名(和文) EBNにもとづく看護実践環境の評価と看護管理モデルの開発

研究課題名(英文) Assessment of working environment and development of administration model on evidence-based nursing

研究代表者

田中 理子(Tanaka, Michiko)

九州大学・薬学研究院・特任助教

研究者番号：20648480

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：Evidenced Based Nursing(EBN) 実践環境尺度としてInformation Literacy for Evidence-Based Nursing Practice (ILNP)日本語版を使用した調査では、EBN手順書導入は浸透している一方で、看護師が個人的に情報を求める先が同僚や先輩であり、エビデンスに基づく情報資源は十分に活用されていない結果であった。EBN実践環境チェックリストを作成し、5施設で調査を実施した結果では、知識や労働環境が実践に活用できていない現状も示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、臨床のEBN実践環境、特に科学的根拠に基づいた看護を普及・標準化させるための情報活用の実態把握とEBN実践環境確立に向けて調査を実施している点に学術的・社会的意義がある。看護師の労働環境の中でも看護教育者と中堅看護師を軸に、今後のEBN導入による看護管理モデルの構築の必要性が明らかとなったが、このことは臨床のEBN実現の可能性の観点からも、取り組むべき社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to evaluate information literacy on EBN and develop EBN administration model for nurses. The survey of Information Literacy for Evidence-Based Nursing Practice revealed that widespread of standard operating procedures on EBN, but effective use of evidence-based information sources. As a result of EBN practical environment check list, informatic working environment and information literacy did not affect implication of EBN since nurses rely on senior nurses rather than evidence-based informatic sources to solve nursing questions on clinical site. These research results indicated importance of imprecation of EBN on nurse educator and mid-career nurses in order to develop administration model of EBN.

研究分野：看護学

キーワード：EBN 看護実践環境 レディネス

## 1. 研究開始当初の背景

医療チームの中で看護がその専門性を発揮することは急務であるが、看護師の研究リテラシーの低さ、指導者の確保や研修体制が課題となり、Evidenced Based Nursing (EBN) の実施が困難であるとする研究報告は多い。従来より実践されてきた「経験や感覚に基づいた看護ケア」ではなく、「科学的根拠 (エビデンス) に基づく看護ケア」を実践することで、アメリカでは、看護の質が向上、更には患者の死亡率の低下 (Aiken、論文多数)、経済的効果も得られることが報告されている。

これまで申請者らは、臨床現場で EBN を実現するための取り組みを行ってきた。研究指導者不足が課題としてあげられ、看護研究支援体制を整備するために、研究指導者の育成や大学院修了者の活用等、院内の支援体制を充実させ、教員と共同で支援することで質の高い看護研究の継続と成果の蓄積が求められた。そこで、大学院修了者を活用し EBN を導入することで、これまでの継続した看護研究教育支援のみならず、看護業務手順書を EBN に即して改訂し、その効果を経済的指標にて評価検討していく、「EBN 導入による看護研究教育モデルを構築 (科研 C)」に着手した。その結果、日本でもまた、大学院修了者の活用と看護手順書に EBN を導入することで、研究費の取得、看護研究の発表、論文執筆等の件数が年々増加し、看護研究実施の定着化が図れた。更に、看護師の情報リテラシーについて日本で初めて行った全国調査の結果、多くの看護師において、その準備状態が十分でないことや、看護実践現場の雰囲気もエビデンス活用に前向でない状況にあるといった障壁が明らかとなった。

これらの研究により、日本では EBN の実現には看護実践環境が大きな障壁になっており、その実態を解明するとともに、評価尺度を作成し、労働環境の規模に係わらずに EBN にもとづく看護実践ができるよう看護管理モデルを開発する着想に至った。

## 2. 研究の目的

科学的根拠に基づいた看護を普及・標準化させるための情報活用の実態を把握し、EBN 看護実践環境の評価尺度の開発と、EBN 看護実践環境確立に向けた看護管理モデルの構築を目的にしている。

## 3. 研究の方法

### EBN 実践環境の把握と評価尺度の開発

EBN 実践環境尺度の開発として Information Literacy for Evidence-Based Nursing Practice (ILNP) の日本語版を使用した調査、文献検索から EBN 実践環境を把握する。専門社会議において、労働環境の規模に係わらず、各病棟で EBN 実践を実現するための環境が整っているのか評価できる尺度を開発し、臨床現場での実用に向けた検討を行う。

### EBN 実践のための看護管理モデルの開発と評価

臨床現場での EBN 実践に欠かせない環境を提供できる、看護管理者・看護教育者・中堅看護師を対象に、EBN 実践環境評価を実施するとともに、評価尺度に沿った EBN 実践環境の指標を作成することで看護管理モデルを構築する。開発した EBN 実践環境尺度と看護管理モデルを用い、実際の病棟で EBN 実践環境を導入し評価する。

## 4. 研究成果

EBN に対する臨床看護師の準備段階 (レディネス) を測定する尺度である Information Literacy for Evidence-Based Nursing Practice (ILNP) の日本語版を使用した調査では、情報を検索するための環境が整っているのか調査する質問項目が多数含まれており、エビデンスに基づく情報資源は十分に活用されていないことが明らかになっている。

専門者会議 (現役看護師 3 名、大学看護学科教員 3 名) を実施し、EBN 看護実践環境チェックリストを作成、各病棟で EBN 実践を実現するための環境が整っているのかを評価できる看護管理モデルを構築するための前段階のチェックリストとして、実行可能性を確かめるためにプレテストを実施した。プレテストは年齢層の異なる現役看護師 (20 代、30 代、40 代各 1 名) と教員 2 名、学生 3 名の計 8 名で、実際にチェックリストに回答を求め、項目に関して理解し難いところがないか確認した。その結果、追加説明を加えることによって、日本語の内容に問題がないと判断された。その後、パイロットスタディーとして、5 施設 (大学病院 2 施設、市中病院 2 施設、

医院 1 施設)にて調査を実施した。インターネットアクセスはどの施設も使用可能であり、その使用頻度に有意な差は見られなかった。文献検索のためのデータベースアクセスに関しては大学病院と修士以上の学位ではアクセス可能との回答が多かったが、情報活用(実践)に有意差はなく、知識や労働環境が実践に活用できていない現状が示唆された。看護師が臨床現場で情報を求める先が同僚や先輩であり、エビデンスに基づく情報資源は十分に活用されていない結果であった。EBN 実践に欠かせない環境が整っていても看護師の EBN 実践リテラシー向上には関連がなく、看護教育者や中堅看護師の EBN に対する対応が情報活用に有意な影響があることが示唆された。

以上の調査より、EBN 実践環境を評価する上で、その指標には、看護教育者や中堅 看護師の教育背景を含めた指標が必要であり、看護管理モデルの重要な要素になることが検証された。EBN を積み上げるために、英国で使用されている Clinical audit (Nursing Audit 含む)の教育用ツールを著作権許諾を得たのちに日本語訳を実施した。

看護管理モデルの構築のために看護教育者と中堅看護師を軸に EBN 実践環境チェックリスト導入と EBN 導入セミナー等を計画していたが COVID-19 感染拡大で臨床現場への導入はできていない。また、日本語訳を完了させた Clinical Audit についても同様の理由で調査・活用は自粛している。WEB での専門者会議を重ね、研究成果を臨床に生かすための必要性と方法を検討しているところである。EBN 実践環境評価・看護管理モデルの臨床への導入と評価は今後の課題として、COVID-19 感染の落ち着きを待って発展させていく見込みである。また、研究全体を通して、病院規模に関わらず EBN 導入やレディネスとしての情報活用に看護教育者と中堅看護師の影響が大きいことから、モデル導入の対象を看護教育者と中堅看護師として評価を実施していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>Tanaka M, Taketomi K, Yonemitsu Y, Kawamoto R                                 | 4. 巻<br>25         |
| 2. 論文標題<br>The current status of nursing professionalism among nursing faculty in Japan | 5. 発行年<br>2017年    |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Nursing Research   | 6. 最初と最後の頁<br>7-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1097/jnr.0000000000000155                                 | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-          |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>M Tanaka, K Taketomi  |
| 2. 発表標題<br>A synergic affect of passive smoking and having dog on pediatric asthma in Japan            |
| 3. 学会等名<br>The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Taketomi K, Tanaka M, Ootaki J.   |
| 2. 発表標題<br>Nursing students' satisfaction with their clinical learning environment and related factors in Japan. |
| 3. 学会等名<br>CLES2018 Symposium（国際学会）  |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>武富貴久子、田中理子            |
| 2. 発表標題<br>BN導入に伴う臨床看護師のレディネスの検証 |
| 3. 学会等名<br>第21回日本看護管理学会学術集会      |
| 4. 発表年<br>2017年                  |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                        | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)            | 備考 |
|-------|--|----------------------------------|----|
| 研究分担者 | 米満 吉和<br>(Yonemitsu Yoshikazu)<br><br>(40315065) | 九州大学・薬学研究院・教授<br><br>(17102)     |    |
| 研究分担者 | 豊福 佳代<br>(Toyofuku Kayo)<br><br>(50737195)       | 産業医科大学・産業保健学部・助教<br><br>(37116)  |    |
| 研究分担者 | 武富 貴久子<br>(Taketomi Kikuo)<br><br>(80543412)     | 札幌市立大学・看護学部・講師<br><br>(20105)    |    |
| 研究分担者 | 藤野 ユリ子<br>(Fujino Yuriko)<br><br>(90320366)      | 福岡女学院看護大学・看護学部・教授<br><br>(37126) |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|